

こんにちは
教育委員です



発行:今金町教育委員の会
〒049-4393 北海道瀬棚郡今金町字今金48−1
TEL:0137-82-3488【No.76】H22(2010).5.19
E−mail:mitsuhiro.nakajima@town.imakane.lg.jp

子どもの読書活動の推進
2010年は「国民読書年」

平成２０年６月に「国民読書に関する決議」が衆参両院で議決されました。この決議は、読書の街づくりの広がりや様々な読書に関する市民活動の活性化など、読書への国民の意識を高めるため、政官民が協力し、国を挙げてあらゆる努力を重ねること求め、２０１０年を新たに「国民読書年」とすることが宣言されました。また、平成１３年１２月には「子どもの読書活動の推進に関する法律」が公布・施行されており、４月２３日を「子ども読書の日」とすること等を定めています。今金町では、これらの動向を踏まえ平成１８年３月「今金町子ども読書活動推進計画」を策定し（1）子どもの読書活動の環境づくり（2）学校、地域社会が連携した読書活動を推進するための事業展開（3）読書活動ネットワークづくりを目標としています。また、本年８月７日（土）・８日（日）は、「第３３回北海道子どもの本のつどい」が今金町民センター、今金小学校を会場に開催されます。小さな町が官民一体で開催するのは全道で初めてとなります。





美利河小学校「海釣り体験バスツアー」同行記

口幼児教育グループ主事　斎藤修二

４月２４日（土）に山村留学制度により美利河小学校に在籍している児童６名を対象に、今金ライオンズクラブ主催の「海釣り体験」に参加させていただきました。

今金町内は雨でしたが、せたな町に入り、バスからの覗く景色に海が見える頃には、最近の低温続きからは想像できない、柔らかい日差しと、海には、波ひとつ見えない穏やかな天気となり、一転して最高の天気となりました。目的地の須築港に到着すると、すでにライオンズクラブの方が撒き餌と餌を用意しており、釣り場には、魚が沢山集まっている申し分ない環境が整えられていました。



子ども達も用意してきた釣り道具をスムーズに準備し、ちょっぴり緊張しながらも大きな期待を寄せている面持ちで海釣り体験が開始されました。しかし、良すぎる天気が災いしたのか、待てども待てども子ども達の（大人もですが・・・）竿が大きくしなることがなく、時間が経過していきました。(釣果は、クラブの方が釣った１匹でした。)それでも子ども達は粘り強く釣りを続け、また、子ども達に良い体験をさせてあげたいとライオンズクラブの方も餌を取り替えたり、撒き餌をしたりと、子ども達も大人も一生懸命に楽しく取り組む姿に、これが、本事業の大事な所なのだろうと思い、私自身も普段の生活・仕事に、この姿勢や気持ちを忘れてはいけないと感じました。最後になりますが、お世話になりましたライオンズクラブの皆様、関係者の皆様、最高の笑顔を見せてくれた子ども達にお礼申し上げます。ありがとうございました。



口社会教育グループ主事　大　口　陽　平

全国から山村留学生が集まる美利河小学校の児童たちに、「楽しい思い出を多く作ってもらいたい。」とライオンズクラブが毎年行っている海釣りに、今年４月から教育委員会事務局へ異動となりました私も参加させていただきました。

例年なら、太陽の光が心地よく感じる季節ですが、今年はいつまでも冷たい風が吹き、寒い日が続いていましたので、海釣りを行うせたな町の港も寒いだろうと心配しておりましたが、海は波ひとつ無く穏やかで、太陽も私たちを歓迎してくれる絶好の釣り日和となりました。



実際に魚を釣り上げることは難しかったのですが、児童たちは「海釣りを楽しんでほしいと皆さんを招待いたしました。今日は、海釣りを楽しんでください。」とのライオンズクラブ水野会長からの歓迎の言葉どおり、何度も餌を付け替えたり、場所を変えたりしながら撒き餌に群がる魚を真剣な表情で追いかけ続けていました。

今回の釣り大会に参加させていただいて、里親の方をはじめとする大人の方々の、児童たちを見守るあたたかい気持ちを直に感じることができ、留学経験者が話す「美利河での生活は忘れることができない経験がたくさんある。」の言葉は、こうした大人の方々の思いが大きく影響を与えていることを感じました。

児童たちが、この日の海釣り大会のように笑顔で毎日を送ることができることを願うと共に、私自身も美利河小学校の児童たちの笑顔をつくることができるよう努力

していきたいと思いました。
　最後になりますが、お世話になりましたライオンズクラブの皆様、また、美利河小学校や関係の方々本当にありがとうございました。
〔参加者〕児童６名、里親４名、教員５名、山村留学推進協議会会員４名、ライオンズクラブ１０名（途中参加者除く）

委員リレー寄稿「歳時記」



今月は、橘教育委員長です。

旨いものの話

　少し前の話であるが、
　久しぶりに弟の家に行った。彼は、今、海辺の町に住んでいる。海の物が好きな弟であるから、何となく車エビを一緒に食べようと、台湾に一番近い与那国島から、自分の行く日にあわせて取り寄せをした。



　弟も、兄が、久しぶりに来るからと同じような考えをしていた。彼は、商売上でエビ漁の船との接点があり、その時季前浜に揚がるエビの手配をしていたのである。このエビ達が凄かった。玄関先に、海水を入れた箱があり、日本最西端から来た車エビと北の地で揚がったエビ、通称ガサエビ（学名イバラモエビ）とシマエビ（ロトアカエビ）。その３種のエビがおよそ２００匹、海水の入った箱の中で飛び跳ね泳いでいる。彼の息子がその日は調理人であった。部屋の中に焼く器具を持ち込み、網ですくって来ては、そのままその器具へ無造作に放り込む。





エビの塩ふり焼きであるが、この辺とは違い塩を振る必要がない。海水の中で泳がせているものを掬ってきて焼くのだから、絶妙の塩味が付いている。旨い。その半月後、義兄の一周忌の法要で、またその地へ行った。母と妻と三人で行き、久しぶりに義兄の子どもたちと会食をし、９０歳近くになる母が壊れたレコードのように同じ思い出をくり返すのを、悲しさとあきらめの感を母の孫たちと、わずかであったが、共有する時間を過ごした。
　帰りしな、弟が「船と連絡がついた。このあいだのエビだ。」海水に泳ぐエビを持たしてくれた。
　泳いでいるエビを初めてみる孫たちと遊びながら、おどり食い、焼きエビ、刺身、二種類のエビを食べ比べ、旨い、美味いといいながら、二時間も、二人の孫を引き付けることは初めてだった。孫ばかりではない。泳いでいるエビは見たことはあるが、遊びながらこれほど長い時間エビを見たことはなかった。おもしろかった。



　旨いはずである。ガサエビも、シマエビも、漁獲量が少なく、一般的に流通はあまりしてない。しかし、専門家は、きわめて美味といっている。

湘南話し方センター所長
松永洋忠先生を講師に迎えて



　現在、神奈川県平塚市で話し方・生き方教室を主宰し、経営者・管理者を対象としたハイクラスセミナー出張講演、各種研修会、イベントの企画から司会者養成まで幅広く手がけられ、さらに、占星術、姓名判断、易学、方位学を３０有余年研究し、数多くの支持者を持つ松永洋忠先生（今金町八束出身）が４月２８日、帰省の貴重な時間を活用頂き、「町民に信頼される職員を目標として～よい人間関係をつくるための心の持ち方と豊かなことばの表現方法～」と題して貴重な講義や接遇等の実技指導をいただきました。
　また、先生は神奈川県警察本部の職員（制服）研修の講師や神奈川県警察学校の外部講師も務めておられることから、檜山北高校を訪問、学校長や進路担当の先生とも面談され、今後、生徒達の受験相談や進路相談にも尽力いただけることになりました。



ふるさと今金の応援団として今後のご活躍をお祈りいたします。